

東日本大震災の発生から11日で3年10カ月を迎える被災地で、一人の鍼灸師が無料治療を定期的に続けている。仮設住宅での生活が長期化し、ストレス蓄積による健康悪化が懸念される中、鍼と灸で被災者を癒やすことに使命感を見いだしている。(石井那納子)

岩手、宮城、福島で無料治療60回

被災者癒やす鍼と灸



①ボランティア治療について思いを語る中野朋儀さん (宮川浩和撮影)
②被災地でボランティア治療を行う中野さん(左)

無料の治療を行っているのは、千葉市緑区の鍼灸師、中野朋儀さん(52)。平成23年5月に宮城県名取市を初めて訪れ、「大がかりな治療設備を必要としない鍼灸治療なら、かばん一つどこにでも向かえる」とボランティア活動を決めた。

それ以来、経営する治療院の休診日を利用して月に1度のペースで被災地に入り、岩手、宮城、福島の被災3県で約60回の無料治療を実施。複数の鍼灸師とチームを組んで訪れることも

あり、仮設住宅内の集会所などで延べ2500人近い被災者に接してきた。当初は治療スペースの確保にも困り、活動日時のお知らせが行き渡らないこともあった。だが、活動も2年目に入ると『また来てね』という言葉から『今度はいつ来るの』と声を掛けてもらえるようになり、活動を続ける原動力になった」と中野さんは振り返る。

治療では「神経痛の状況はどうですか」「生活で変わったことはありますか」など優しく話しかけながら患部を刺激する。体の凝りとともに心もほぐれると、それまで口が重かった被災者も愚痴や悩みを語りだすという。

最近では、「仕事が見つかり、働きに出られるようになった」「早く生活を再建して、もう一度家族3世代で暮らしたい」と前向きに話す被災者も増えた。

●……………○

だが、仮設住宅での生活が長期化することに伴う新たな問題にも直面している。震災発生以降に生まれた子供たちの多くは、ずっと仮設住宅で生活しているため、限られた居住空間の中で感情などを発散できず、ストレスを抱え込む傾向がみられるという。

ストレスが蓄積されれば、肥満などの生活習慣病はもちろんだ、鬱病を引き起こす可能性があり、中野さんは「子供たち自身がストレスに気づくことは少なく、一緒に生活している大人も見落としてしまいがち。私たちが注意喚起して

いかなければ」と語る。

●……………○

発生から3年10カ月となる11日から2日間、岩手県陸前高田市を訪れ、市立下矢作小学校のグラウンド内にある仮設住宅を中心に、市内5カ所で無料治療を実施する。

「今回は、新しく30代の鍼灸師が『活動してみたい』と声をあげてくれた。医療ボランティアは継続することに意味がある。若手が活動に関心を持ってくれることは心強い」と意気込む中野さん。支援の広がりに応えを感じ、継続に意欲を見せている。

今回の無料治療は11、12日に実施。治療時間は1人30分。受付時間は各会場で異なり、マッサージだけでも受けられる。問い合わせは、陽だまり「はりきゅう」治療室 ☎043・291・6546 (留守番電話となる場合でも、記録された着信への折り返しあり)。

東日本大震災の被害	
9日現在 警察庁まとめ	
死者	15889人
行方不明者	2594人